

室城秀之著

『源順全歌集』

佐藤 信 一

まだ、自分が学生だった頃、自主ゼミという制度があった。院生や学生たちで集まって自主的に運営する研究会のようなものだった。ある年、そこで『順集』をやろうといった人がいた。「とつても面白いですよ。これ。」と言って私家集大成のコピーを見せてくれた。すごかった。文字が躍っていた。双六の歌とか言っていた。あまりに難しそうだったので、結局別の仮名の作品になった。今から思えば痛恨の極みである。順が『落窪物語』や『うつほ物語』の作者に擬せられ、和歌のみならず漢詩文でも作品をのこしていることを知ったのは後年になつてからであつた。

この度、室城先生が刊行された『源順全歌集』は、『順集』をも含み込むもの。『国歌大観』所載『順集』の底本である西本願寺本系を基本にして、『順集』所載の歌、及びそれ以外の順の和歌を全て集めたものである。

ただし和歌の配列でいくつか『国歌大観』と変えている。ただ、それも『国歌大観』が改めた配列を元に戻したものであつたり、底本になく『国歌大観』でも補われていない歌を補っている。順の和歌を極力挙げようとしている点で一貫している。

その上で『順集』の二類七系統の本文を並列して校異が手に取るように分かるかたちになっている。これからの『順集』研究

の基本的、また根本的な資料となるであろう。そして、これをもとに順、ひいてはこの時期の文学総体の解明が成されることを室城先生は目指しているのであろう。和歌、物語、そして漢詩漢文でも作品を織り上げていった順の、和歌からのアプローチが今可能になつたと言えるだろう。

(平成十四年二月一〇日刊 A5判 二九三ページ 私家版)